

bxbase パッケージ (v1.0)

(ユーザ命令の解説)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

2013/04/29

1 パッケージの読み込み

`\usepackage` で読み込む。オプションは無い。

```
\usepackage{bxbase}
```

※本パッケージのライブラリとしての機能は特定のエンジンや DVI ウェアに依存しないが、以下に述べる命令については必ずしもそうでないことに注意。

2 機能

2.1 DVI special 出力

- `\recordpapersize` : 次の形の `papersize special` 命令を DVI の先頭に出力する。
`papersize=<幅>,<高さ>`
(幅と高さは現在の `\paperwidth` と `\paperheight` の値。)
※ `papersize special` は `dvips`、`dvipdfmx`、`dviout` 等の DVI ウェアで有効である。(pdfTeX では無効。)
- `\dvipdfmxmapfile{<修飾子><ファイル名>}` : `dvipdfmx` のマップファイル指定を文書中で行う。(<修飾子> は空 (置換)、+ (追加)、- (削除) の何れかである。当然 `dvipdfmx` 専用である。
※次の形の `special` 命令を DVI の先頭に出力する。
`pdf:mapfile <修飾子><ファイル名>`
- `\dvipdfmxmapline{<修飾子><マップ行>}` : `dvipdfmx` のマップ行指定を文書中で行う。(<修飾子> については前項と同じ。`dvipdfmx` 専用。
※次の形の `special` 命令を DVI の先頭に出力する。
`pdf:mapline <修飾子><マップ行>`

2.2 符号値による文字入力

- `\Ux{<コード値>,...}`
`\UI{<jコード値_j>,...}` : Unicode コード値による入力を行う。`\Ux` は欧文用、`\UI` は和文用 (I は Ideographic の意味)。コード値は以下の形式で表す。コンマで区切って複数文字入力できる。

- $\langle 16 \text{ 進数} \rangle$: A72C, 02000B, 1bd 等。
- $\langle 10 \text{ 進数} \rangle$: +254, +0937 等。
- $\langle 8 \text{ 進数} \rangle$: '376, '1651 等。

Unicode 文字の出力には次の順番で利用可能な最初の機能を用いる。(\UI の場合 3) を飛ばす。

- 1) xjatype パッケージ。この場合、その機構に従って出力される。すなわち \UI は必ず和文フォントで出力し、\Ux は和文/欧文切替の対象となる。
- 2) XeTeX の Unicode 出力。
- 3) (\Ux のみ) bxucs パッケージ。
- 4) upTeX の和文 Unicode 出力。
- 5) UTF / OTF パッケージ。
- 6) ums / bxsuika パッケージ。

どれも使えない場合は「16 進表現による代替表現」になる。

- \AJ{ \langle コード値 \rangle ,...} : Adobe-Japan1 のコード値による入力を行う。コード値は 10 進数で指定する。出力には次の順番で利用可能な最初の機能を用いる。
 - 1) xotf パッケージ。
 - 2) UTF / OTF パッケージ。
 どれも使えない場合は代替表現になる。
- \JI{ \langle コード値 \rangle ,...} : いわゆる「JIS コード」(JIS X 0208 の GL 表現) のコード値による入力を行う。コード値指定の方法は \Ux と同じ。出力には (u)pTeX の JIS コード和文出力の機能を使う。使えない場合は代替表現になる。
- \KI{ \langle コード値 \rangle ,...} : いわゆる「区点コード」のコード値による入力を行う。コード値指定は「RRCC」(RR は区番号、CC は点番号を 10 進 2 桁で表したもの) の形式で指定する。出力には (u)pTeX の JIS コード和文出力の機能を使う。使えない場合は代替表現になる。
- \bxUx / \bxUI / \bxAJ / \bxJI / \bxKI : \Ux 等は非常に短い名前なので他のパッケージと衝突する恐れがあり、そこでこのパッケージでは既に同名の命令がある場合は上書きしないようにしている。 \bxUx 等はそれぞれ \Ux 等と同じで、先のような場合にも常に使える。

なお、このパッケージは bxutf8 の為のドライバ (\bxUHex) および bxutf8x の為のドライバを \Ux に相当するものに設定する。